

プロレタリア

発行所・新世界通信 発行人・小川春夫

東京都足立区梅島2-38-11-303

TEL 03(3849)4953 FAX 03(3849)4938

郵便振替 00160-4-174947

E-mail ga3129@i.bekkoame.ne.jp

URL http://www.bekkoame.ne.jp/i/ga3129

トランプ中国包囲、前線に立つ自公政権

長射程ミサイルの九州先行配備阻止

3月30日、日米防衛相会談が市谷で行なわれた。トランプ政権のヘグセス国防長官は、「日本は中国共産党の軍事侵略を抑止する上で不可欠なパートナーだ」と述べ、異常な反共・中国対決の姿勢を示した。これに中谷防衛相は、「切迫感をもって進めていく決意」と応じた。



▲ ミサイル統括の第2特科団 (湯布院)

同29日、硫黄島に石破・中谷、ヘグセスがそろい、「戦後80年」の日米同盟を誇示する式典が行なわれた。

同28日、マニラで米比防衛相会談も行なわれ、フィリピンへの対艦ミサイル追加配備などが示された。

現在ヨーロッパでは、ウクライナ停戦協議とも関連して米・欧の分裂が現われ、トランプ政権は、NATO欧州軍司令官を下りることも示唆している。しかし案の定、東アジアでは、トランプ政権は日韓比などの結束を維持し、中国包囲戦略をさらに強化しつつある。

3月27日、石破政権は沖縄先島12万人の九州・山口への避難計画を公表し、全体の訓練を来年度実施と発表。同24日、日本側は、陸海空自衛隊を一体的に指揮する「統合作戦司令官部」を発足させた。米側も在日米軍司令部の統合司令部への格上げを開始

している。同24日、第8地対艦ミサイル連隊が大分・陸自湯布院駐屯地に発足(同30日に式典)。同所の第2特科団が九州・沖縄のミサイル部隊を統括し、長射程ミサイルの今年度内の九州先行配備、26年度内の沖縄配備を目指している。

「戦争止めよう! 沖縄・西日本ネットワーク結成集会」が開催された(前号既報)。これに参加した根本博さん(南西諸島への自衛隊配備に反対する大阪の会)から、種子島訪問記が寄せられたので紹介する。

種子島、馬毛島は鹿児島県西之表市。馬毛島では、琉球要港化の拠点として、米軍FCLP訓練施設を含めた自衛隊陸海空の総合基地が建設進行中。(編集部W)

今回の鹿児島訪問は、「沖縄・西日本ネットワーク結成集会」参加と馬毛島上陸を目指すこと。2月23日早朝の高速船に乗り、2泊3日で種子島を訪問しました。

1日目はレンタカーで、種子島をルート58号

探索の一面を見ることができました。25日は、海は風いであり、早朝より馬毛島行き。海上タクシーの動向、タグボートに繋がれて西之表港を出港する台船を見ることになりました。

ない、地場産業の人手が不足し、また、たぐさんの基地建設の労働者を受け入れることでのゴミ問題をはじめ、生活・医療、福祉など様々な問題を引き受けるを得ない種子島。工事終了後も、安定した地域経済が成り立っていないのか、危惧を感じた種子島訪問となりました。(寄稿・根本博)

戦争挑発は、韓国国内でユン・ソクヨル大統領の罷免を求める民衆の闘いが高まる中でも、続いている。東京3月6日の午後、米大使館抗議行動が聞かれた。10日からの米韓軍事演習フリーダムシールドの中止を求め、またユン罷免決起連帯を訴えた。「反戦実」の呼びかけで約30名が参加。民主労総のキム・ウニョンさんも、オンラインで今こそ韓日民衆連帯とアピールした。(W)

予算成立しても石破危機 大軍拡反対! 3月「19の日」行動

与党衆院過半数割れの石破自公政権は、2025年度予算案では維新の協力(高校無償化問題)を得て、その修正予算案を3月4日に衆院で約30名が参加。民主労総のキム・ウニョンさんも、オンラインで今こそ韓日民衆連帯とアピールした。(W)

イスラエル軍による虐殺攻撃の再開を糾弾し、また米口間でウクライナ抜きで停戦交渉はありえないと指摘した。佐藤学・東大名教授は、「3月7日、政府は学術会議つづきの新法を閣議決定した。学問を軍事研究に総動員しようとしている。反対署名の拡大を!」と訴えた。女性による女性のための相談会の丸山さんは、都内10回めの相談会を案内。最後に、総がかり行動実の高田健さんが以下を行動提起。

日韓民衆連帯の未来へ

サンケン弾圧・尾澤裁判3・28報告集会

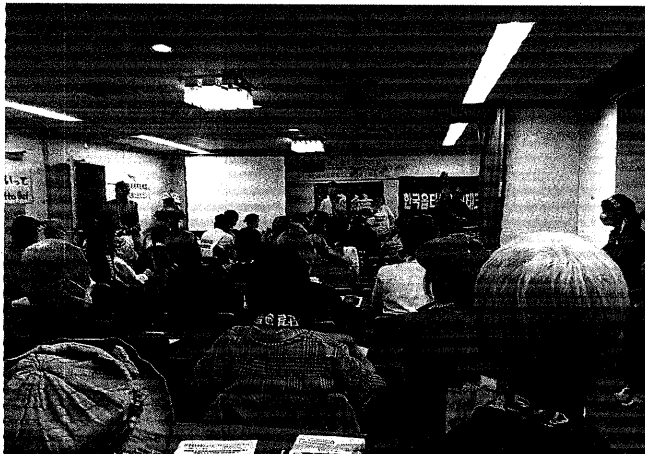
3月28日、足掛け10年にわたる韓国サンケン闘争の集約集会とも言える「サンケン弾圧・尾澤裁判3・28報告集会」が「最前線」の報告集会として、東京・文京区民センターで行なわれた。主催は、韓国サンケン労組を支援する会などで122名が参加。

この集会のため韓国から元韓国サンケン労組支会長のオ・ヘンさん、元副支会長で現民主労総慶南地域本部長のキム・ウニョンさんらが、韓国の尹錫悦弾劾罷免の闘いの合戦を縫って参加してくれた。

集会は、支援する会共同代表の中原純子さんが、開会のあいさつと司会をつとめた。主催者挨拶と映像を含めた経過報告が行なわれ、サンケン電気本社行動で弾圧・長期拘留・不当判決を受けた尾澤孝司さんの挨拶があった。弁護団の荒木弁

護士、上野弁護士から、それぞれ経過報告。続いてオ・ヘンさんからの挨拶、そしてキム・ウニョンさんから挨拶及び「2025年世界高裁の告発書」の朗読。来賓の挨拶は、尾澤裁判3・28報告集会の報告、東京・文京区民センターで行なわれた。主催は、韓国サンケン労組を支援する会などで122名が参加。

についてパワーポイントを交えて説明に解説し、韓国労働者民衆運動と日韓連帯の役割を明らかにするものであった。集会は、長きにわたるサンケン闘争の役割を、日韓の民衆連帯を現して現在・未来につなげるものとして再確認するものであった。(東京R.U通信員)



▲ 大阪では、OP闘争報告集会 (記事は3面)

大阪では、OP闘争報告集会 (記事は3面)

大阪では、OP闘争報告集会 (記事は3面)

大阪では、OP闘争報告集会 (記事は3面)

紙上討論！左派・団結統合⑦

永続革命論序説

●新聞 純也 (反戦・反貧困・反差別共同行動in京都 代表)

▼ 1 ▲
1917年ロシア革命に始まり1975年ベトナム解放闘争で終焉した古典的帝国主義に対する一連の革命、すなわちロシア、ユーゴスラビア、中国、キューバ、ベトナムの革命は、課題として絶対主義に對して、ファシズムに對して、植民地支配に對してであつて、「民主主義革命」だつた。その主体が共産党に率いられた労働者・人民(多くは農民)ではあつたが。

他方先進国では、1919年ドイツ革命の敗北にはまり何度かあつた革命的動向にもかかわらず、ことごとく敗北した。

この敗北は、1920年代後半以降のスターリンのコミンテルン支配のスターリニズムを抜きには語ることができないが、それだけでは不十分で、先進国の社会構造に深く関連している。すでにレーニン、トロツキーによつて「ロシアのような遅れた国では、革命を行うことは比較的やさしいが建設することは困難だ」ということが、革命の時代であり、いまだ資本主義は発展段階だつた。1848年2月革命の6

月事件でプロレタリアートは「市民」から自己を区別し、そして1871年にはパリコミューンによつてプロレタリア独裁の萌芽を形成した。しかし、当時の資本主義発展段階とそれに規定されたプロレタリアートの成熟状況からすれば、革命は具体的日程に上つていなかった。ルカチッチが「革命の現実性」と表現したように、次の帝国主義段階に具体的な現実性となる。

マルクスは48年2月革命(ドイツの3月革命)を前にして、「ヘーゲル法哲学批判序説」でドイツの現状を論じた。ドイツは、イギリスやフランスがなした産業革命や政治革命を観念的に「ドイツ古典哲学」になしただけである。そこで現実的変革は英・仏がなしたような変革(ブルジョア革命)ではなく、家の柱を変えるラディカル(根本的)な人間的解放であり、その変革の主体はプロレタリアートである。

ここにすでに、ロシア革命以降の永続革命の論理が登場している。つまり当面する民主主義的変革は本来それを担うべき(英・仏ではそうであつたような)ブルジョアジーが去勢され旧体制と妥協しており、替わつて最も体制から疎外されていくプロレタリアートが担わねばならない。しかし、プロレタリアートはいったん立ち上がるならば当面の政治的変革にとどまらずに進んで根本的な、人間的、社会的解放まで突き進む。

しかし、後にエンゲルスが回想して書いているように、2月革命の敗北後マルクス、エンゲルスはこの永続革命論を放棄した。「歴史は、大陸における経済発展の水準が、まだどういふ資本主義的生産を阻止しているかに成熟していないことが証明した」(「フランスの階級闘争」序文)。

マルクスは48年2月革命(ドイツの3月革命)を前にして、「ヘーゲル法哲学批判序説」でドイツの現状を論じた。ドイツは、イギリスやフランスがなした産業革命や政治革命を観念的に「ドイツ古典哲学」になしただけである。そこで現実的変革は英・仏がなしたような変革(ブルジョア革命)ではなく、家の柱を変えるラディカル(根本的)な人間的解放であり、その変革の主体はプロレタリアートである。

ここにすでに、ロシア革命以降の永続革命の論理が登場している。つまり当面する民主主義的変革は本来それを担うべき(英・仏ではそうであつたような)ブルジョアジーが去勢され旧体制と妥協しており、替わつて最も体制から疎外されていくプロレタリアートが担わねばならない。しかし、プロレタリアートはいったん立ち上がるならば当面の政治的変革にとどまらずに進んで根本的な、人間的、社会的解放まで突き進む。

▼ 5 ▲
ロシア革命後の「永続革命」には三つの問題がある。一つは、ドイツ革命の流産に始まる西方の先進資本主義国家での革命の不成立である。

このフランスの労働者の敗北を機に1789年1848年1871年の革命の第一サイクルは終わり、運動の中心はドイツに移つていく。ドイツ社会民主党と自由労働組合である。

ここにすでに、ロシア革命以降の永続革命の論理が登場している。つまり当面する民主主義的変革は本来それを担うべき(英・仏ではそうであつたような)ブルジョアジーが去勢され旧体制と妥協しており、替わつて最も体制から疎外されていくプロレタリアートが担わねばならない。しかし、プロレタリアートはいったん立ち上がるならば当面の政治的変革にとどまらずに進んで根本的な、人間的、社会的解放まで突き進む。

▼ 6 ▲
以上古典的帝国主義とそれに対応するロシア革命(「現代革命」の第一段階「革命サイクルの2」)から、1970年代からの新自由主義と「社会主義の崩壊」以降の第二段階(「サイクルの3」)の革命について考える。

①資本主義の変容
レーニンがブルジョアを批判して独占資本がいわば産業資本の上部構造として存在すると主張したように、現在の資本主義は独占資本の進化としての多国籍企業を「上部構造」とする。またコンピュータ(さらにAI)を駆使した制御とロボット化を生産過程の特徴とする。さらに銀行だけでなく機関投資家を含めた金融資本の巨大化と、世界のあらゆるところへの

物質労働、サービス労働を含む広義に解釈すべきである。

②労働、労働者階級の変容
資本主義の変容は、そのもとでの労働者階級の変容を伴う。すでに古典的帝国主義の時代に表れていた労働者階級内部の階層化はますます拡大する。

③国家と市民社会の変容
I)産業資本主義段階の国家は「夜警国家」である。

④暴力装置と戦争の変容
エンゲルスは有名な「フランスにおける階級闘争」の序文で、従来のバリケード戦の時代は終わったと述べた。実際、フランス大革命1848年2月革命1871年パリコミューンは、バリケード戦で戦われた。帝国主義時代に市場再分割、植民地争奪をめぐる帝国主義戦争の時代には、それは、第一次大戦以降総動員体制のもと前線の塹壕戦での戦いであるとともに、背後の国民的生産力、ロジスティックを総動員するものとなった。重火器の進展、飛行機の登場etc。

韓国オプティカルハイテック闘争 3・27大阪集会

遠征67日完遂、次へ

3月27日大阪市内で、韓国オプティカルハイテック（OP）労組日本遠征団は、日東電工への雇用継続と争議解決を求める（1月中旬からの）本社行動の締めくくりにして、その67日にわたる最終日に遠征闘争報告集会を行なった。会場の「エルおおさか」午後2時には、おおさかいました」「食い逃げ日東電工に勝つまで闘おう」をメインスローガンとして、韓国現地工場屋上で445日、約1年以上の高空籠城闘争を闘う女性労働者をはじめ組合員との、ズームによる現状報告と交流が行なわれた。OP組合員からは、「私たちはこの闘いを勝利するまで闘います」

「日東電工の悪事を皆に知らしめていきます」、「1日も早く話し合いに応じてください!」との力強いアピールが行なわれた。

さらに、27日には韓国民主労総が尹大統領弾劾効・政権打倒ゼネストに突入したとの報告もあり、遠征団は、「私たちは日東電工に虫けらのよ

うに扱われても、こうして生きている労働者がいることを知らしめるのです、そして日本の支援の皆さんに感謝します！」と締めくくった。

最後に遠征団から、この遠征闘争は今回で終わりとなつたが、今後も引き続き遠征を準備し、闘い続けるとの強い言葉があった。われわれは遠征団の勝利への強い決意に連帯し、本社のある大阪で一層の熱い闘いを繰り広げていかねばならぬ。

日東電工高崎社長は争議解決を決断せよ！

(大阪S通信員)

第三段階、グローバル化の時代、特に社会主義圏の崩壊以降決定的となった。同時にやはり不均等発展の結果アメリカ力から崩壊し、また一元体制が崩壊し、また植民地から解放された途上国がグローバルサウスとして台頭し、不安定な無極化の時代に入っている。

▼ 7 ▲

以上の資本主義の変容とプロレタリアートの容容、そして革命主体の発展や挫折や裏切りの中から、今後の革命の客観的、また主体的条件とは

アの変革には三つのコースがありえた。第一は上からの二つの道のプロロシヤ型を通した(反)「革命」いわゆるボナパルチズムの変革である、第二はメンシェビキやカカデットの資本主義的民主主義的革命である、第三は社会主義革命への永続革命のコースである。

三つのコースは、ロシアではツァーリ絶対主義権力の存在によつてロシアの特殊性をもつて現れたが、一般に資本主義にあつては普遍的に三つのコースがある。①危機に際して、資本主義は自動崩壊するものではなく資本の側からの変革一ケ

性があるとはいへ、それは必然性ではない。突き抜ける可能にするのはプロレタリアの成熟、力量の階級意識の発展だけである。

その階級意識は資本と労働者の関係、経済闘争だけからは形成されない、階級関係を「総括する国家と諸階級の關係、その中で労働者階級の位置と役割の認識」へゲモノー意識によって形成される。そのためには、ブルジョアジーや他の階級の政党をはじめとするヘゲモノー装置に對抗する労働者階級の「ヘゲモノー装置」党を中心とした陣形を必要とする。

味での外部からの「外部注入」が必要であるという事である。言うまでもなく党も労働者階級の意識的分子であるという意味では「内部」ではあるが。

④日本の（また多くの世界的）新左翼運動は、以上のようなマルクス・エンゲルス、レーニンの「永続革命論」の止揚の立場になく、結果帝国主義的経済主義や左翼小児病に陥った。トロツキー（「永続革命論」、ローザ（労働組合、党大衆ストライキ」、資本蓄積論、ユニウスプロレシユール）も傑出した革命家であつたとしても

にロシア革命の時ですら既存の軍隊を利用せざるを得なかったし、まして現在の高度に発達した技術で構成されている軍隊である。だが、一定の人民の武装によつて既存の軍隊を統制するものとして全人民武装を考えればいい。

②上記のことは、どの時代にも共通の原則である。現代の条件を考えるとき、考慮に入れるべきことはやはりグラムシの提起である。

グラムシが言おうとしたのは西方では大衆の蜂起を妨げ、あるいはそれら吸収する市民社会ブルジョアジーの諸ヘゲ

トリノでの工場委員会運動があった。いずれにしろ、この時代は工場が議会の中心だった。

この段階での先進国の人口構成はアメリカを除けば、いまだ農業、農民の比率が高かった。またサービス労働者の比率も相対的に低かった。それゆえに、労農同盟、実能的には農民出の兵士の獲得が重要だった。

現代の人口構成で6割以上を占める非物質的労働、サービス業労働者の増大があり、農民はほとんどの国で5%を割る。

このような中でも、工場、物質的労働、生産点での運動の比重は極め

ところで大衆蜂起にレニンは左翼小児病で述べたように、体制危機——大衆がこのままでけやつていけないと考えただけでなく支配者階級もこのままではやつていけないようなが必要である。それはどのようなものかは予測できないが、確実なのは新自由主義がもたらす富の法外な偏在、格差と貧困、富の偏在、富んだ者たちの腐敗、腐朽性、寄生性——それらを修正できない一政治的にはそこからくる極威主義——民主主義の否定、これらに対する大衆の不満の鬱積、要するに階級対立の激化が根底に

石川一男さん逝去

第4次再審闘争勝利を

狭山事件の無実を60
年余訴え、再審開始を求
め続けてきた石川一雄さ
んが3月11日、狭山市内
の病院で逝去了。86
歳であつた。

新証拠の万年筆インク
鑑定等の採否が山場を迎
えるなか、石川さんが昨
年から体調を崩され、何
としても元氣な内に再審
開始の決定を、と皆が

思っている矢先の訃報で
あつた。無念と言うほか
はない。

狭山事件は、違法な取
り調べと証拠捏造の冤罪
事件であるだけではない
く、部落差別にもとづい
て石川青年を犯人にでつ
ち上げた権力による差別
事件であつた。この権力
犯罪との闘いに、被害者
が存命の内に勝利できな

かつたことは、日本人民の反差別と民主主義の闘いの力不足として深い反省を迫られるものがある。

第3次再審請求審は本人死去によって審理終了となったが、再審請求権者である妻の石川早智子さんが闘いを継いで、第4次再審闘争が始まることとなる。新証拠は再び

スによる1848年革命時点での永続革命論は、エンゲルスの総括の通り一旦放棄された。資本主義に生命力があり永続革命を貫徹する客観的条件がなかったのである。いうまでもなく、だからと云って手をこまねいて時期を待つのではなく、その準備としてのプロレタリアートの成熟を促す組織戦が必要であり、それは主として労働組合と政

社会主義への道は決して俗流史的唯物論のいうような法則性ではない、トロツキーのいう永続革命もせいぜい社会主義革命への「傾向性」に過ぎない。社会主義革命に到達できるか否かは、国際的国内的客観的有利な諸条件を除けば、上記コースの死闘を通して

とき評価があるが、少なくともその精神において誤謬であり、「二つの戦術」の革命的道へと労働者階級が進むためには「何をなすべきか」「階級意識はどのようにして形成されるべきか」という原則的に正しいヘゲモニー論である。

ここでレーニンが言わんとしていることは、社会主義は何か抽象的なものではなく平等民主

ある。①にもかかわらず革命は大衆の蜂起、その蜂起の機関としての「評議會」によつてなされることとは疑いない。それが従来の形態と異なるとしても、凡そ、革命が議會によつてなされたことはいない。議會を通して変革がなされたように見えることもあるが、その背景に

付言すれば、クラムシは後にトリアツテイー構造改革論者によつてゆがめられたような平和革命論者ではない。その「力関係のモメント」論文を讀めば、最終的に軍事的モメントももちろんその前提は政治的モメントである。によつて決着がつくものとされていることからも明かである。その意味ではグラムシは機動戦論者でもある。

1918年ドイツ革命時
点で表れていた、労働者
階級の分断は新自由主義
下で一層拡大している
「買収された」多国籍企
業をはじめとする独占資
本下の労働者、それは労
働組合に組織された組織
労働者でもあるが当初
から蜂起の先頭に立つこ
とはないであろう。

2011年のオキユバ
イ運動などもそのことを
示している。そこでは労

以上、資本主義、労働者階級、国家、その中の軍事技術——これらの変容に對して蜂起の陣形を形成する陣地戦が必要である。陣地戦を行うためには揚棄された永続革命論が必要であり、それは政治的平等——民主主義と社会的平等を闘い取ることを通してのみないうる。その意味で新左翼運動



石川一雄さんと早智子さん

ターを止めさせないよう
に操作し、階段も封鎖す
る暴挙を行なった。一切
の抗議を、また要請書も
も一切受け取らないとい
う悪辣な企業なのだ。

参加者は怒りも新た
に、9階ホールで抗議
アピールを行なったあ
と、「エルおおさか」へ
向かった。

報告集会では、「共に
闘ってください日本の
皆さん、ありがとうござ

石川 雄

さんと早智子さん

石川一雄さん追悼集会は4月16日、東京神田の日本教育会館、午後1時。主催は部落解放同盟、狭山再審を求める市民集会実行委。

5月23日・午後1時、1963年別件逮捕の「5・23狭山デー」には、東京・日比谷野音で狭山事件の再審を求める市民集会。第4次再審闘争の大衆的な開始宣言となる。

(A)

②帝國主義時代の到来とともに革命の現実性が日程に上り、それと共に永続革命は復活した。だがそれはその前期に準備された組織戦を媒介にした、いわば正揚された水統革命論である。それはグラムシが述べているようにイリツチ「レーニンに体现された。

③その意味は次のことである。レーニン（ロシニアン）に即していえばロシニアン

性」に「党」の役割がある。レーニンの「二つの戦術」はありうる二つのコースのなかで革命的独裁、革命的民主主義的独裁に徹底した民主主義を主張した。それはパブルスとトロツキーが言うようにプロレタリアート：農民が革命の主体である以上、絶対主義権力の打倒に民主主義革命にとどまらず、さらに進むが社会主義革命へと進む傾向

てしか実現しえないものであること——後に帝國主義的經濟主義批判や、左翼小兒病批判に通じる——だが、民主主義を社会主義に転化するものは労働者階級の階級意識の成熟の外にないこと、そのためには二重の意味で「外部から」、すなわち、単に資本と労働の關係だけでない国家と諸階級の關係という意味での外部から、また「党」という意

会と蜂起を通して人々は自己の力を確信し自治を学び自身を革新する。この自己革新なしに人民の統治はない。更に、議会によつては、既存の暴力装置や官僚組織を根本から作り変えることは不可能だという事からも蜂起と評議会が必要である。軍隊を全人民武装に変えるというコンミュン原則の一つは、空想的に見えるかもしれない。確かに

ルクの主要著作が「労働組合、党、大衆ストライキ」であるように当時の蜂起への陣形、こちら側のヘゲモニー装置は党・労働組合を軸とした。ロシア革命においても工場労働者と兵士が評議会・ソビエトをつくり、ドイツでも革命的オプロイテズに代表されるように工場労働者と兵士がレーテリヤでもグラムシたちの

として、ネグリの言葉を
使うならマルチチュード
として登場した。そこに
彼らの強さと弱さがある。
エジプトでの若者たち
の決起にしても最終段階
でイスラム同胞団と軍
に収斂させられた。突き
抜けるためには、より広
範な大衆を結集させる大
衆組織——評議会が必要
であり、またそれを領導
する「市民的オプロイテ
（工作者）」が必要だった

した時、真のオプロイテ
リ工作者となることがで
きる。(了)

★編集部お知らせ
本シリーズ「紙上討
論!左派団結 統合」で
の、尾澤孝司さん寄稿ト
ランポ政権の発足と日本
の変革運動」その3は
次号掲載予定。

また、連載「広がる先
住民族の闘いと深まる先
住権思想」は今号休載。

